

調布市長 長友 貴樹 様
調布市教育長 大和田 正治 様

2021年8月31日

学校における新型コロナウイルス感染防止対策に関する要望

日本共産党調布市議団 岸本直子
雨宮幸男
武藤千里
坂内 淳

これまでの新型コロナウイルスとレベルの違うデルタ株は、子どもの感染をめぐる状況も大きく変えました。

そうした中、調布市及び調布市教育委員会では、いち早く夏休みの延期、2学期当初（9月12日まで）の対策を決定したこと、自宅療養者などに対するパルスオキシメーターや食料などの支援、三多摩六市長の都に対する療養施設の開設要望など、市民の命を守るための迅速な対応に感謝申し上げます。

しかし、コロナ感染拡大の状況は厳しく、感染防止対策を徹底しつつ学校教育をどのように進めていくのかが引き続きの課題となります。引き続きのご努力をお願いしたく、以下要望いたします。

- 1, 13日以降の授業について、感染防止対策を強化しつつ、分散登校なども取り入れながら、可能な限り登校し学校で学べる条件を作ること。
- 2, 通常授業とは違う形になった場合も、給食の提供を行うこと。
- 3, タブレットのWi-Fi環境整備のための貸し出しをすること。
- 4, 教室の換気を常時換気（4カ所開けなど）これまで以上に徹底すること。
- 5, 教職員、児童、生徒はウレタンなどのマスクではなく、不織布マスクをつけることを重視し（つけることが困難な子どもは除く）、用意できない子どものために、市として不織布マスクを支給すること。学童クラブなども同様の対応をすること。
- 6, 陽性者がでた場合、濃厚接触者を狭く見ず、実態に応じ、学級・学年・全体などの広めのPCR検査を行政検査として行うこと。

7, 全職員、全生徒が、週に1回程度の迅速抗原検査を行い、早期の無症状者の発見、隔離が行えるよう、国・東京都に要望すること。

8, 児童・生徒で陽性者となる子どもが増えている。そうした子どものフォロー体制を整え、欠席中も含めた学びと心のフォローをすること。また、学校全体でコロナをめぐる誹謗中傷、いじめなどのトラブルにつながらない対策の強化をすること。

9, 子どもたちは長い間我慢を強いられ、さまざまな不満を募らせている。新型コロナウイルスと感染の仕組みを学び、受け身ではなく自分の頭で考え納得して行動変容し、自分たちの学校生活の前向きな話し合いを行うことが重要であり子ども自らが責任ある感染防止行動をとることにつながる。そうした学びの保障をすること。

10, 学童クラブは休まず通常の育成が行われているが、スペースが狭く密になりやすい状況がある。学校施設を活用するなど、蜜を回避する柔軟な対応をすること。

以上